

「未来をつくるのは、いつの時代も”人”である」

校長 駒田 勝

「電子コンピュータは間違いをしない。そして、いつも冷静だ」

令和 8 年 5 月 28 日(木)、赤とんぼ文化ホールを会場に創立記念講演会を実施しました。今回の講師には、京都大学大学院教授の朽尾豪人氏(龍高 40 回生)をお招きし、「シンギュラリティは到来したか ― AI が変える世界でどう生きるか ―」というテーマでご講演いただきました。

シンギュラリティとは、人工知能が人間の知能を超える瞬間を示す言葉で、日本語では「技術的特異点」と訳されています。その到来については諸説ありますが、提唱者であるレイ・カーツワイル博士は 2045 年頃と予測しています。また、彼は「人工知能が人間の知能と融合する時点」としてこの言葉を定義し、AI が人間と融和する形で進化していく可能性を指摘しています。一方で、シンギュラリティは単なる技術の話ではなく、「人間とは何か」「社会とはどうあるべきか」「私たちはどのように未来を選び取るのか」といった根源的な問いを投げかける概念でもあります。

ところで、冒頭の一文は、今から半世紀以上も前に放送された『ウルトラセブン』第 43 話「第 4 惑星の悪夢」の中でアンドロイドの長官が発した言葉です。この作品では、高度に発達した機械文明を築いた第 4 惑星の住民が、効率と合理性を追求するあまり、自らの心を機械に委ね、ついには人間らしさを失い、自らが生み出した電子コンピュータに支配されてしまった世界が描かれています。この第 4 惑星の管理社会に対し、主人公のモロボシ・ダンが終始「これはおかしい」と違和感を抱き続けます。この違和感こそが、物語全体を通して「人間らしさとは何か」を私たちに問いかける重要な視点となっています。人間の不完全さや多様性を互いに認め合い、「人間らしさ」を忘れてはならないと鋭い警鐘を鳴らす作品と言えます。

現在、本校は「知を創造する人づくり」をスローガンに掲げ、校訓である「向上」「友愛」「団結」の三綱領のもと、文武両道の実践を通して、地元西播磨はもとより、兵庫、日本、さらには世界で活躍しようとする高い志を持つ人材の育成に努めていますが、今後、たとえ社会がどのように変化しようとも、皆さんには、自らの課題を自ら見つけ、考え、仲間と協働し、新しい価値を生み出す人間へと成長してほしいと願っています。そこで、

私からこの機会に改めて三点申し上げます。

一点目は、「考える力」を磨くことです。AI は膨大な情報を処理し、最適解を提示することができます。しかし、「何を目的とするのか」「何を大切にするのか」を決めるのは人間です。目的なき技術は、方向を失った船のようなものです。皆さんには、情報を鵜呑みにせず、自分の頭で問い、判断する姿勢を持ち続けていただきたいと思います。

二点目は、「他者とつながる力」を大切にすることです。AI は便利ですが、友情や信頼、励ましや共感といった人間同士の関係は決して代替できるものではありません。第4惑星の住民が失ったものは、まさにこの“心のつながり”でした。困っている友を助けること、意見の違う相手と対話すること、誰かのために力を尽くすこと。こうした営みこそが、「人間らしさ」であり、社会を支える土台になりうるものです。

三点目は、「未知を恐れず挑戦する姿勢」を持つことです。AI 時代は、正解のない時代です。だからこそ、失敗を恐れず、新しいことに挑む人が未来を切り開きます。皆さんがこれから出会う困難や迷いは、決して無駄にはなりません。むしろ、その経験こそが、AI には決して模倣できない“あなた自身の価値”となります。シンギュラリティが訪れる未来は、決して暗いものではありません。技術は使い次第で、人間の可能性を大きく広げる力になります。大切なのは、技術を鵜呑みにして振り回されるのではなく、技術を使いこなし、自分の人生を主体的に選び取ることです。

未来は、誰かが決めるものではありません。皆さん一人ひとりが、日々の選択と行動によって形づくっていくものです。どうか胸を張って、自分の未来を、自分の力で切り拓いてください。私たち教職員は、皆さんのそうした挑戦を心から応援していきます。

結びに、来年はいよいよ創立 130 周年という大きな節目を迎えます。本年 5 月には「130 周年記念事業実行委員会」を発足し、第一回会合を開催いたしました。皆さんの母校である龍野高校の新たな挑戦に対し、皆で力を合わせ大いに盛り上げ、「令和版龍野高校」を共に築いていきましょう。